

# 地域医療の未来を切り拓き、南隅地域の基幹病院として皆さまに愛され続ける新・肝属郡医師会立病院



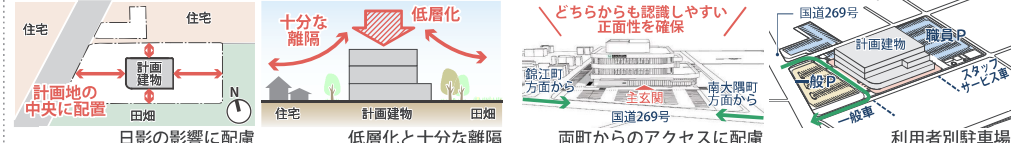
肝属郡医師会立病院再整備事業は、南隅地域で唯一の入院機能を持つ病院として、急性期～回復期～慢性期まで幅広い患者に対し、より一層の「地域医療の拠点」となる施設整備に向けたとても重要な事業です。私たちは、医療・介護・福祉の連携の上、「地域全体で治し・支え・守る」シームレスな連携の推進を果たすことができる施設づくりを目指します。

**「地域」「患者」「スタッフ」の3つの視点を大切に病院づくり**

- 「患者」が安心して医療を受けられる病院
- 「地域」をつなぎ、医療・介護・福祉のシームレスな連携を推進
- 「スタッフ」が働きやすくチーム医療を実践できる病院

## 01 周辺住宅や田畑への影響を与えない建物の低層化と中央配置

- ① 周辺環境に配慮した「コンパクト×低層型病院」**
  - 北側の住宅や南側に広がる田畑等の周辺環境に対して、日影の影響を最小限とするため、建物は敷地の中央に配置し、近隣との十分な隔離を確保します。
  - 病院は1フロア2棟棟の3階建てとすることで、圧迫感を抑え、周囲に広がる山並みと調和した計画とします。
- ② 錦江町や南大隅町からのアクセスに配慮**
  - 国道269号に面して一般駐車場と主玄関を設け、錦江町や南大隅町方面の両町からの来院者に対してわかりやすい計画とします。
  - 建物の西側を一般駐車場、東側を職員駐車場とし、明確に分離した利便性の高い配置計画とします。



- ③ 機能性・安全性が高くわかりやすいアプローチ**
  - 一般車・バス入口は建物北西側、職員・サービス・救急車入口は建物南東側とし、車両混雑を避けた安全性の高いアプローチ計画とします。
  - 南北の道路を拡幅し、バスを敷地内に引込み、寄り付きが可能となりある車寄せを玄関前に確保することで、利用者の利便性に配慮します。
- ④ 周辺環境に溶け込むホスピタルパーク**
  - 敷地周囲には、緩衝帯として緑地を設け、南側にはゆったりとしたホスピタルパークを計画することで周辺環境に溶け込む病院づくりを行います。
  - ホスピタルパークはリハビリの場とともに、地域に開放し、農作業の休憩やバスの待ち時間に利用する等、日常的に親しまれる公園として整備します。



## 基本コンセプト・考え方 地域医療の未来を切り拓く『新・肝属郡医師会立病院』の4つのコンセプト

### 01 シンプルでコンパクトな病院づくり

・面積効率の良い整形かつシンプルな平面計画と、周辺環境に配慮した3階建てのコンパクトな低層型病院

**整形** 面積効率を高める **コンパクト**

**低層化 (3階建)** 周辺環境に配慮

### 02 回遊性のあるワンフロア外来

・回遊性のあるわかりやすい外来診療部門構成とし、外来、健診、スタッフ、サービスの動線を完全分離

**健診・透析への動線分離**

外来、健診、スタッフ、サービスの動線を完全分離

### 03 将来変化に伴い柔軟な運用が可能な病棟

・将来の人口減少や超高齢社会に対して、病床数や病棟種別・区分の変化に柔軟な運用が可能な病棟計画

**病棟区画の可変 4区画による運用も可能**

DR, 病室, 見守り, SS, 区画A, 区画B, 区画C

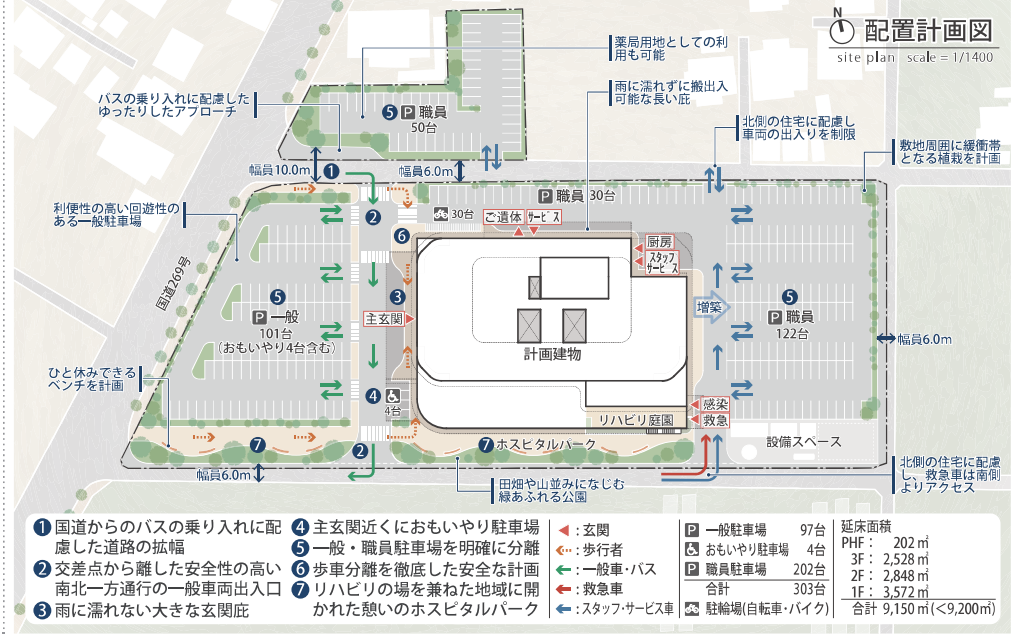
### 04 スタッフの動線短縮と連携促進

・全フロアの中央に『スタッフベース』を計画し、各部門へのスタッフ動線の短縮、部門間連携の促進を実現

**働きやすい環境づくり**

『スタッフベース』各フロアの中央に計画 水平動線短縮 チーム医療連携強化

管理部門(2階) 2階に計画することで スタッフやドクターの上下移動短縮



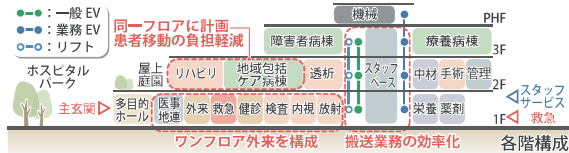
# 地域密着型のケアミックス病院として、地域住民に信頼される機能的でコンパクトな新病院

課題④ 敷地や病院施設の有効かつ機能的な活用について / 課題⑤ 地域に密着した病院として、患者や家族などの利用者に優しい施設整備

## 01 患者・スタッフが利用しやすい各階構成

### 1 機能的なフロア構成と縦動線

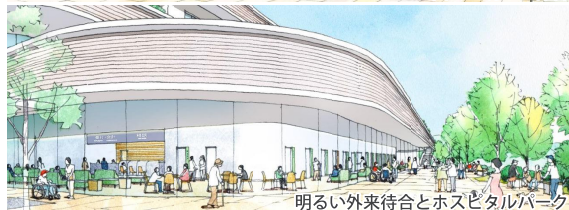
- 1階に外来や救急、検査、健診部門をまとめた「ワンフロア外来」とし、来院者の利便性と診療業務の効率性に配慮します。
- 地域包括ケア病棟とリハビリを同一フロアに設けることで、患者移動の負担を軽減します。
- 管理部門を2階に設け、スタッフの縦動線を短縮します。
- 業務E Vに面して栄養・中材等の供給部門を配置するとともに、薬剤・検体部門と病棟をつなぐリフトを計画することで搬送業務の効率化を図ります。



## 02 コンパクトに集約したワンフロア外来

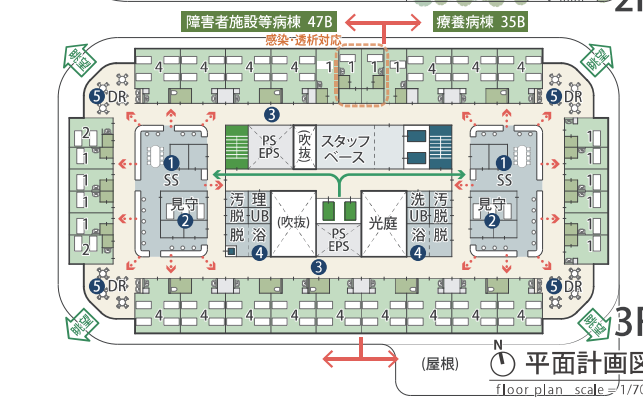
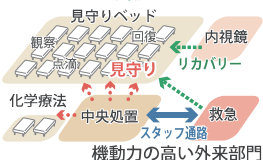
### 1 回遊性のあるわかりやすい外来・検査動線

- 総合受付を起点に、診察、各検査部門への回遊性のあるわかりやすい外来動線を計画します。
- 健診から検査部門、及び2階の透析へは、外来待合を通過せずにアクセス可能な計画とします。
- 多目的ホールは、集団健診や会議・地域開放・災害時利用などに配慮し、1階のわかりやすい位置に計画します。



### 2 スタッフ動線を短縮化した機動力の高い外来部門

- スタッフの配置や業務負担軽減に配慮し、中央処置に面して内視鏡のリカバリーや化学療法を計画することで、見守りベッドを一箇所に集約配置します。
- 外来と救急を近接配置し、スタッフの動線や連携に配慮します。



- 1 回遊性のあるわかりやすい外来・検査動線
- 2 線豊かなホスピタルパークに面した待合
- 3 効率的な見守り可能な中央処置と内視鏡の隣接配置(ベッド集約)
- 4 薬剤部門に隣接した化学療法室
- 5 業務効率を高めるスタッフ専用通路
- 6 外来・放射線と隣接した効率的な救急部門
- 7 外来患者と動線分離が可能な独立した健診と2階へのE V動線
- 8 集団健診や会議・地域開放・災害時などに利用できる多目的ホール
- 9 医事・地域医療を集約した患者支援センター

- 1 眺望がよく外部階段でホスピタルパークとつながるリハビリ庭園
- 2 地域包括ケア病棟と隣接したリハビリ
- 3 ゆとりあるベッド間隔と見守り重視の透析室
- 4 手術を管理部門に隣接しドクター動線に配慮
- 5 中央材料を手術・サービスコアと隣接した効率的な配置
- 6 総務・医局・会議などの管理部門を集約配置
- 7 チーム医療を推進するスタッフのカンファや休憩に利用するスタッフベース
- 8 前室を設け陰圧対応とした感染対応病室
- 9 左右使い勝手の異なるトイレを各所に設置

- 1 スタッフステーションからの見守りを重視した病棟計画
  - 2 S S内の見守りしやすい観察ベッド(3B)
  - 3 病室から近く早期離床を促す分散トイレ
  - 4 将来変化に容易に対応するため機械浴スペースを各病棟に確保
  - 5 豊かな眺望を取り入れた快適なデイルーム
- ← 一般・外来患者 脱: 脱衣  
 ← 健診・透析利用 汚: 汚物  
 ← スタッフ・サービス 理: 理容  
 ← 見守り 洗: 洗濯  
 ← 一般EV 倉: 倉庫  
 ← リフト(検体・薬剤)

## 03 入院患者の高齢化と重症化に対応した病棟

### 1 見守り重視の「ナースিংホール型病棟」

- 入院患者の高齢化に対応するため、見守りを重視したナースングホール型病棟を提案します。
- 病棟中央にスタッフステーションを配置することで、見守りのしやすさとともに、各病室への看護動線の短縮化を図ります。

病棟形状	□型配置	十字型配置
病室 デイルーム 看護単位 看護動線		
SSからの視認性	◎	○
看護動線長さ	△	△

病棟比較

### 2 『治療』『ケア』『療養』環境を高める病室計画

- 2方向のベッドレイアウト、リハビリスペースの確保が可能なゆとりある病室とします(1)。
- ベッド間には、個室感を高め、飛沫感染の防止にもなる木製家具を計画します(2)。
- 車椅子対応の洗面器(3)、転倒事故を防止するやさしい床材、離床センサーの設置などきめ細やかな計画を行います。



## 04 機能性と快適性を両立する治療空間

### 1 見守りを重視した透析室

- 見守りに配慮し、すべてのベッドをスタッフカウンターから見渡すことが可能な計画とします。
- 輻射式空調システムを採用し、快適な治療環境を整備します。



### 2 眺望のよい明るいリハビリ

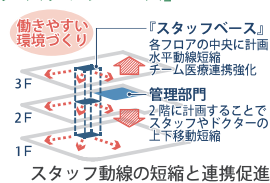
- リハビリテーション室は、開聞岳を臨む錦江湾や山並み、田畑などの眺望を取り込みます。
- 2階のリハビリ庭園から地上のホスピタルパークへ直接降りることができる階段を設けることで、昇降訓練や歩行訓練に活用します。



## 05 チーム医療推進と働きやすい職場環境

### 1 スタッフに選ばれる病院づくり「スタッフベース」

- チーム医療の拠点として、各フロアの中央に「スタッフベース」を計画します。
- 各部門へ最短距離でアクセスでき、多職種間のコミュニケーションを促すとともに、医療の最前線から少し離れたリラックスできる休息の場を整備します。



# 患者・スタッフにとって快適な環境づくりと、将来の医療・介護や急激な人口減少に対応する可変システム

課題⑤ | 地域に密着した病院として、患者や家族などの利用者に優しい施設整備

## 01 ユニバーサルデザインを徹底したやさしい病院

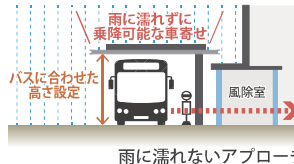
・多様な利用者の視点を大切に、安心・安全の「ユニバーサルデザイン」を徹底し、ホスピタリティに配慮した設えとします。



## 02 ホスピタリティに溢れたきめ細やかな設え

### ① 雨に濡れないアプローチ計画

・主玄関前には底のかかった車寄せを計画し、車やバスから雨に濡れずに乗降可能な計画とします。  
・おもいやり駐車場から建物までのアプローチは、庇をかけることで雨に濡れない動線計画とします。



### ② 外構や建物全体をオールフラット化

・転倒防止策として、外構、建物ともに段差のない計画とします。  
・滑りにくい床材の採用、コーナー部で連続する手すり等、きめ細やかな利用者にやさしい計画とします。



### ③ わかりやすい案内サイン

・はじめての来院者や目の不自由な方に対して、明度差や大きさ等に配慮したわかりやすい案内サインとします。



### ④ 設備や家具のきめ細やかな設え

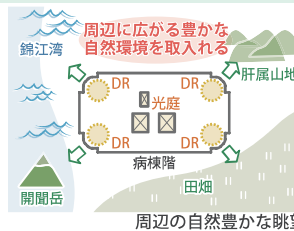
・患者の高齢化や重症化を考慮し、車いす利用に適したカウンター形状及び洗面・手洗いの選定を行います。



## 03 光・風・緑を取り込んだ心地良い環境づくり

### ① 患者・来院者・家族のさまざまな居場所

・1階待合スペースは外部のホスピタルパークに面して計画し、自然採光と緑を取り込んだ明るい空間とします。  
・病棟には、東西南北にデイルーム(DR)を計画し、開聞岳や錦江湾、肝属山地、田畑等の豊かな自然を取り入れます。  
・暗くならない病棟廊下に自然採光・自然通風を取り入れ、明るく快適な病院づくりを行います。



## 04 地域医療のネットワークを強化

### ① へき地医療拠点病院としての環境整備

・へき地医療拠点病院として、ICTを活用し、診療情報や検査結果等の医療情報の共有・一元管理、遠隔診療の環境整備等、地域医療ネットワークの強化を図ります。



課題⑥ | 将来の医療から介護への機能転換を容易にするための方策について

## 01 フレキシビリティの高い病棟計画

### ① 「病棟区分の可変」による病床数の調整

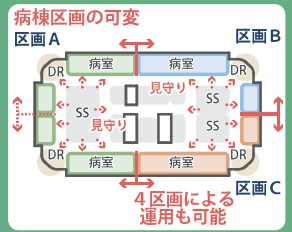
・各病棟の病床数の変化に応じて、病棟区分を自由に变化することが可能

### ② 病棟全体の「4つのエリア分け」が可能

・4つのエリアに分け将来的に緩和ケアや認知症ケアユニット等の導入も可能

### ③ 常に「見守り機能」を維持

・各病棟の中央にスタッフステーションを設け、変化後も見守り機能を維持



## 02 将来の病棟種別および各病棟の病床数の変化に対応

### ① 2026～2055年度へ向けた病棟の変化に柔軟に対応

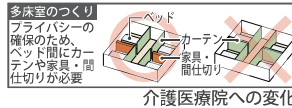
・将来の患者数の減少を見越した事業収支計画(「肝属郡医師会立病院再整備基本計画」より)に合わせて、改修費用を最小限に病棟種別や病床数の変化にフレキシブルに対応可能な病棟計画とします。

年度	2026	2030	2035	2040	2045	2055
開院	5年目	10年目	15年目	20年目	30年目	
地域包括ケア	50B	47B	45B	45B	30B	30B
障害者施設等病棟	47B	45B	45B	45B	30B	30B
療養病棟	35B	35B	35B	35B	50B	50B
合計	132B	125B	125B	125B	110B	110B

### ② 療養病棟から介護医療院への変化

・医療施設内に介護医療院を併設する場合、医療施設と介護医療院の間に扉による明確なエリア分けが必要となります。  
・運用等に配慮し、浴室等の介護医療院に必要な諸室を、予め各病棟に計画しておくことで、大規模な改修をせず、柔軟に将来変化が可能な計画とします。  
・多床室は家具やカーテン等を用いて、入所者のプライバシーを確保する必要があります。ベッド間にカーテンや家具・間仕切りを必要とします。

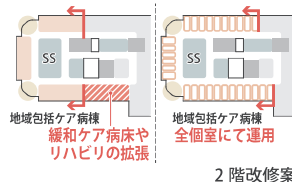
必要諸室	転換内容	必要諸室	転換内容
療養室	※病室を転用	レクリエーション	DRを転用
診察室	如置室を兼用	洗面所	洗面
如置室	洗面	便所	洗面
機能訓練室	リハビリと兼用	トイレ	SSを転用
談話室	DRを転用	調理室	栄養部門と兼用
浴室	DRを転用	洗濯又は洗濯機	※器具の取付
給食室	洗面	汚物処理室	器具の取付



### ③ 病床数の変化による改修のさまざまな可能性

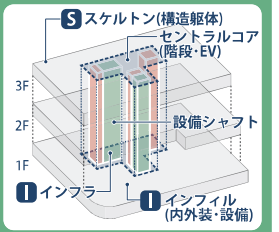
・2階は地域包括ケア病棟の病床数の変化に対して、将来需要に合わせた下記のようなさまざまな改修が可能です。

- ① 地域包括ケア病棟を全個室化
- ② 一部を緩和ケア病床+家族控室
- ③ リハビリや透析の拡張
- ④ 中央材料・手術・管理部門の拡張



## 01 建物の可変性を向上する『コンバーチブルシステム』

・スケルトン(S)、インフラ(I)、インフィル(II)を分離し、それぞれが独立した可変システムである「コンバーチブルシステム」を採用し、将来の改修及び用途転換に柔軟に対応できる高い可変性を有し、長く使える建物とします。

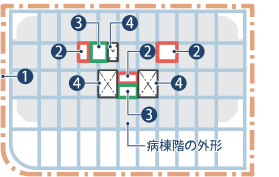


- S スケルトン…建物の構造躯体
- I インフラ…電気・水道等の基幹設備
- II インフィル…内外装・設備

## 02 将来変化に対応する改修しやすい構造躯体 S:スケルトン

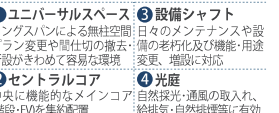
### ① 可変性を高める「セントラルコア」

・建物中央に階段やEVをまとめた「セントラルコア」とし、設備シャフトや光庭も中央にまとめることで、将来変化に柔軟に対応する建物の骨格を形成します。



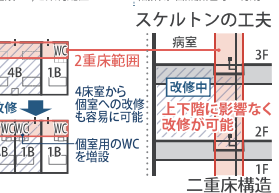
### ② 整形な可変空間「ユニバーサルスペース」

・間仕切りの変更が可能な「ユニバーサルスペース」を各フロアに整形に確保することで改修の自由度を高めます。



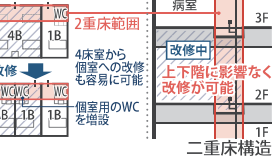
### ③ 下階に影響なく改修「二重床構造」

・病棟のトイレ等の水廻り部分は床下げすることで、下階の運用や入院患者へ影響することなく改修工事が可能な二重床構造を提案します。



### ④ 設備機器の更新や増築に対応

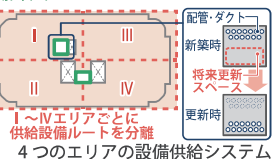
・全フロア全周にメンテナンスバルコニーを設けることで、設備機器の更新が容易に行える計画とします。  
・画像診断の機器更新や高度化に対応するため、1階放射線部門東側の増築を想定した計画とします。



## 03 維持保全・更新しやすい設備シャフト I:インフラ

### ① 更新・機能転換等に対応しやすい基幹設備計画

・基幹ルートとなる中央の設備シャフトは、上下に同じ位置に通すことで維持保全・更新が容易な計画とします。  
・中央の十分なスペースを確保した設備シャフトにより、4つのエリアの独立した設備供給システムを構成し、改修のしやすさに配慮します。



## 04 内装・設備機器の「ユニット化」 I:インフィル

### ① 構造躯体から完全分離の工場生産ユニット

・機械浴室を含むすべての浴室やシャワー室、ユニットコンセプト、設備ユニットバス等、内装・設備機器の「ユニット化」を徹底します。  
・ユニットは構造躯体への埋込を原則無いものとし、構造躯体から独立することで、より高い可変性を実現します。



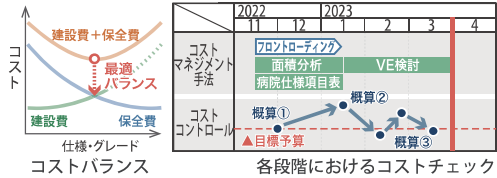
# あらゆる視点からコスト効果を検証し、南隅地域の気候・風土に適した最高のパフォーマンスを実現

課題① | 建設費用の見込み、削減方法について

## 01 情勢の変化を見極め、予算を厳守するコストマネジメント手法

### ① 各段階におけるコストチェックとV E提案

- 設計の進捗に合わせて、各段階にて概算工事費の算出を行い、コストチェック及びV E提案にて確実に予算内に納めます。
- あらゆる可能性を比較検討し、「建設費+保全費」が最小となる適切なコストバランスを導き出します。



### ② 補助金の申請・取得の支援

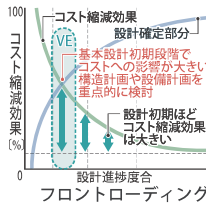
- 豊富な病院設計の経験を活かし、建設費の財源確保に向けた補助金の申請・取得に関する提案や支援を行います。

環境省	新築建築物のZEB化支援事業
国土交通省	都市圏再編集中支援事業
経済産業省	太陽光発電導入促進事業
厚生労働省	医療施設近代化施設整備事業 *鹿児島県内実績あり

他病院支援例

### ③ 設計初期段階のコスト検証

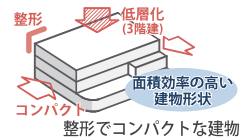
- 建物規模・構造・設備計画の方向性について、初期段階からコスト比較を含め検討を行う「フロントローディング」管理を徹底します。
- 鹿児島県や南隅地域近郊における現状の医療施設築札価格の分析等を徹底します。



## 02 徹底的に合理化することで「建設費」を削減

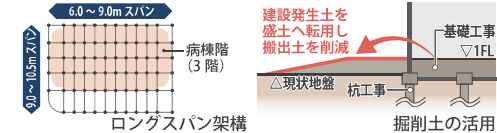
### ① 面積効率の高い建物形状

- 整形でコンパクトな建物形状かつ低層とすることで面積効率を高め、床面積及び建築面積、外壁面積を削減します。



### ② 敷地特性を踏まえた最適な基礎計画

- 地質調査資料から、計画地は深度2.0m程度が支持地盤と想定されるため、杭基礎を採用します。
- ロングスパン架構とすることで、柱や杭の本数を削減し、建設発生土を削減した上、発生した掘削土は盛土に有効活用することで、場外搬出量を削減します。



### ③ 物価や納期、機能性を考慮した構造形式

- 近年の鋼材の価格高騰と納期遅れの著しい鉄骨(S)造ではなく、鉄筋コンクリート(RC)造を採用します。
- 設備や医療機器・備品の損傷を最小限に抑える剛性、潮風に対する耐塩性に優れたRC造を採用します。

コスト・工期・耐塩性のすべてにおいて経済的な構造形式を採用

	RC造	S造	SRC造
構造体イメージ			
コスト	◎ 価格変動が少しい	△ 鋼材価格の上昇	△ 鋼材価格の上昇
工期	◎ 一般的な工期	△ 鋼材不足により工期が長い	△ 工種が増え工期が長い
潮風に対する耐塩性	◎ RC外壁とすることが可能	△ 外壁金物が錆びる恐れあり	△ RC外壁とすることが可能

最適な構造形式を採用

### ④ 病院仕様項目表による仕様の最適化

- 新病院の診療機能・BCP・省エネなどグレードを整理した病院仕様項目表を用い、各項目ごとにコスト・品質を比較検討し、コストの最適化を図ります。

省エネ(例)	エネルギー消費効率	LCC	A	B	C
建築	環境基準	大	CASBEE Bクラス	CASBEE Aクラス	CASBEE Sクラス
ガラス	中	大	単板ガラス	ペアガラス	Low-Eガラス
電気	太陽光発電	中	小	なし	5kW~10kW未満
空調	コージェネ	大	中	不採用	採用(温水排熱)
衛生	給湯方式	大	中	第3種方式	ロスナイ

病院仕様項目表

### ⑤ メリハリのある仕上計画

- 患者ゾーンとスタッフゾーンを明確に分け、メリハリのある仕上グレードを設定することで、仕上コストを削減します。



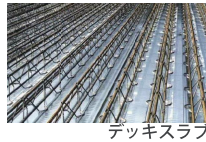
### ⑥ 標準化・プレハブ化

- 外部サッシや内部建具、病室の仕上材等の標準化・プレハブ化や、空調熱源機器のモジュール化を図り、施工を合理化することでコストを削減します。

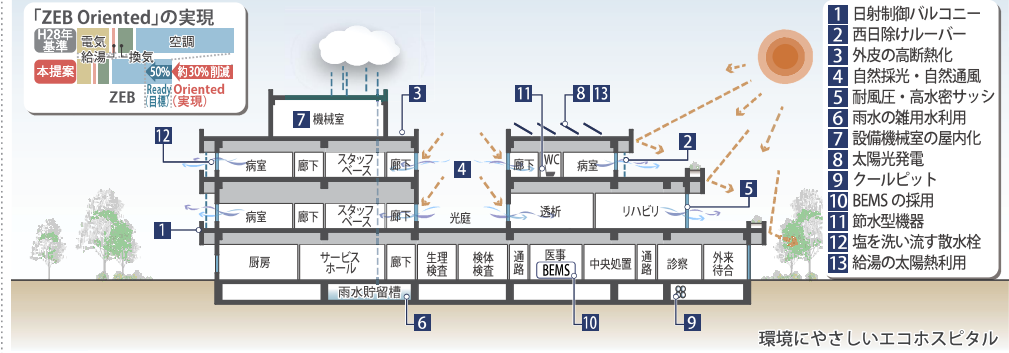


### ⑦ 構造躯体施工の合理化

- 床材「鉄筋トラス付デッキスラブ」を採用し、現場での支保工の省略や配筋工事の短縮により工期短縮や職人不足に対応します。



課題② | ランニングコスト削減方策について



## 01 南隅地域の豊かな自然エネルギーを活かした建物づくり

### ① 自然エネルギーを活かしたエコ建物

- 計画地の豊富な雨量、年間を通じた安定した日照時間等の気候特性を踏まえ、自然エネルギーの活用として、自然採光・自然採光の取り入れや太陽光発電、雨水、太陽熱の有効利用を検討します。

### ② 自然採光を取り入れ照明負荷を低減

- 1階待合スペースは、田畑の広がる南側に開いた計画とし光と緑を取り入れます。
- 病棟は中央の光庭や四隅のデイルームより、廊下等の共用部に自然採光を取り入れ、照明負荷を低減します。



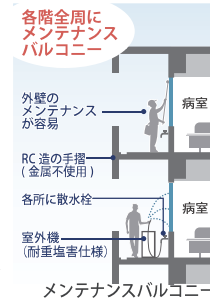
## 02 強い日射しを遮り、錦江湾からの潮風から建物を守る全周バルコニー

### ① 全周バルコニーにより空調負荷低減

- 建物の全フロア全周にバルコニーを計画し、西日対策として縦ルーバーを採用することで、直射日光を遮ります。

### ② 日常的メンテナンスや機器の更新が容易

- バルコニーには、日常的に潮風を受ける外壁や窓サッシ、室外機等の設備機器を定期的洗浄するための散水栓を各所に配置します。



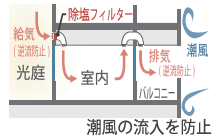
### ③ 耐塩性の高い外装・設備

- バルコニーの手摺や屋外階段等には金属を使わず、外装はすべて耐塩性の高いRC造+超耐候性塗装とし、設備機器は耐重塩害仕様とすることで、塩害による劣化を防ぎます。



### ④ 潮風の流入を防ぐ給排気計画

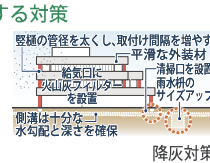
- 給気口には除塩フィルターを設置の上、光庭より給気し、外周のバルコニーより排気することで潮風の室内への流入を防ぎます。



## 03 梅島の噴火に備えた降灰対策

### ① 火山灰による不具合を防止する対策

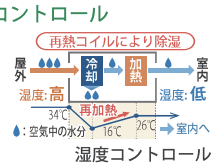
- 外気取入口には火山灰フィルターを設けることで建物内への侵入を防止します。
- 堅壁の管径を大きくし、取付け間隔を増やす
- 平滑な外装材
- 清掃口を設置
- 雨水槽のサイズアップ
- 側溝は十分な勾配と深さを確保



## 04 梅雨時期のカビの発生を抑制

### ① カビの発生を抑制する湿度コントロール

- 再熱コイルにより湿度をコントロールすることで湿気の滞留による結露やカビの発生を抑制します。
- 結露防止型の吹出口や防カビ仕様の内装材を採用します。



## 03 予算厳守のコストマネジメント

- 上記の建設コスト削減手法により、建設予算厳守を徹底したコストマネジメントを行います。
- 設計と並行してコスト情勢調査も行い、早期に建設費高騰に対する適切なV E提案を行います。

建築工事	2,010,000,000
電気設備工事	540,000,000
機械設備工事	800,000,000
共通費	550,000,000
本体工事費	3,900,000,000
外構工事費	200,000,000
<b>概算総工事費</b>	<b>4,100,000,000</b>
	【税込/円】

## 05 ランニングコスト(光熱水費)25%削減

- 上記の運用コスト削減手法により、既存病院と比較してランニングコストを25%削減します。
- 病院経営を継続的に支えるため、各部門のエネルギー消費特性をふまえた省エネ計画を行います。

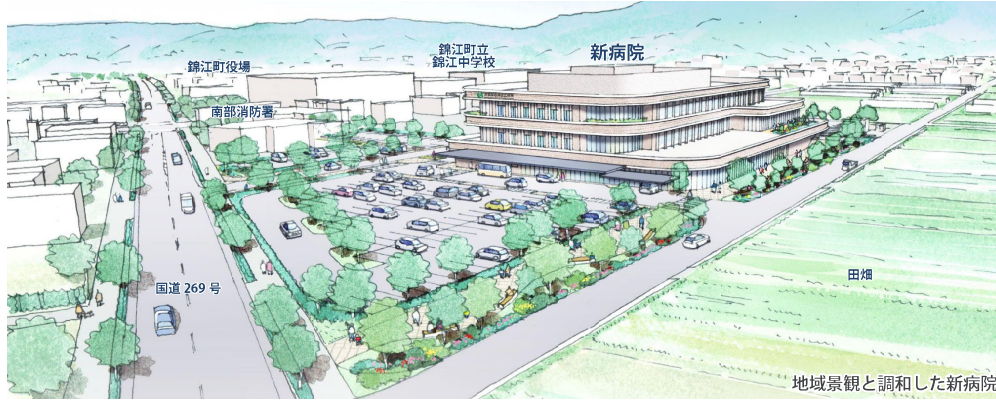
部門	削減項目(空調)	削減項目(電気)
病棟	高効率個別分散式空調	LED照明・人感センサー
診療	高効率個別分散式空調	LED照明
外来	CO <sub>2</sub> 濃度制御による換気	時間帯・エリアに応じた制御
栄養	電化厨房機器の採用	電化厨房機器の採用
機械	高効率チラー・BEMS	高効率トランス・太陽光

ランニングコスト既存病院より25%/m削減

# 『対話の設計』を重視し、皆さまと同じ想いを共有しながら南隅地域にしかない“オンリーワン”の新病院を実現

課題⑥ | ①～⑤以外の提案について(独自提案:任意)

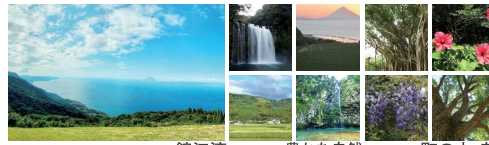
## 01 地域に開き、地域と調和したオンリーワンの病院づくり



地域景観と調和した新病院

### ① 南隅の地域景観と調和した建物づくり

- ・建物は曲面を描くやわらかい印象の外観とし、雄大な自然になじむ落ち着いた色調にて計画します。
- ・敷地周囲には、緩衝帯として緑地を設け、地域になじみがあり潮風に強い樹木を植栽します。
- ・地域に開放した散歩や休憩ができるホスピタルパークを計画することで親しみやすい病院づくりを行います。

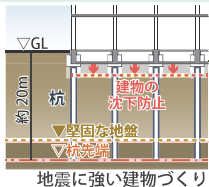


錦江湾 豊かな自然 町の木・花

## 02 南隅の人命を守る岩として、災害に強く医療の継続が可能な「BCPホスピタル」

### ① 地震に強い建物

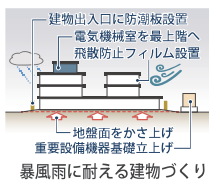
- ・一般建物の1.5倍の耐震性能を確保し、大地震後も構造体の損傷なく継続使用が可能な計画とします。
- ・計画地の地盤状況を十分に把握したうえで、建物の沈下を防ぐ杭基礎を採用します。



地震に強い建物づくり

### ② 暴風雨に耐える耐風圧・高水密の外装

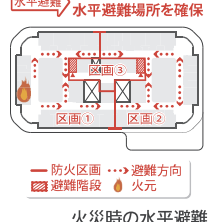
- ・バルコニーや縦ルーバー、ガラスフィルムにより暴風時の飛来物から建物を守ります。
- ・庇やバルコニーの軒裏は、耐風圧かつ耐塩害仕様の天井下地とし、外部サッシは、耐風圧、高水密仕様とします。
- ・各出入口に防潮板を設けます。



暴風雨に耐える建物づくり

### ③ 火災発生時の安全な避難計画

- ・安全な2方向避難ルートを確保した上で、自立避難が困難な患者のため、防火区画を多重化することで、一時的に滞留できる安全な水平避難経路を確保します。
- ・内装の不燃化、バルコニーによる上階への延焼防止など、出火・延焼防止対策を徹底します。



火災時の水平避難

### ④ 緊急事態に対応できる災害に強い病院づくり

- ・主玄関に面した多目的ホールや待合には非常電源・医療ガスなどの設備を備え、被災者の応急処置・トリアージ等の活動スペースとして利用可能な計画とします。
- ・敷地北側のヘリコプターのランデブーポイントへのスムーズな動線を確認し、重症者の迅速な救急搬送や物資の受入体制を構築できる計画とします。



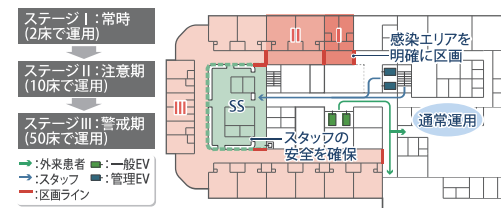
### ⑤ 災害時にも機能を維持するバックアップシステム

電力	・非常用発電機(備蓄燃料:軽油 3日分)
上水	・耐震型受水槽(3日分)
雑用水	・雨水貯留槽(3日分)
下水	・緊急排水槽(3日分)
医療ガス	・液酸タンク(3日分)
通信	・防災通信システムや高速衛星通信に対応

## 03 院内感染の拡大抑制・スタッフの安全を守る感染対策

### ① 感染拡大状況に応じた病棟の段階的な感染区画

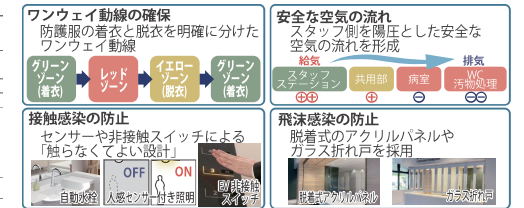
- ・病棟内の感染症患者の増加に伴い、ステージI→II→IIIと、段階的に感染対応エリアの拡大を柔軟に行える病棟計画とします。



段階的な感染区画

### ② 感染管理の徹底とスタッフの安全を守る工夫

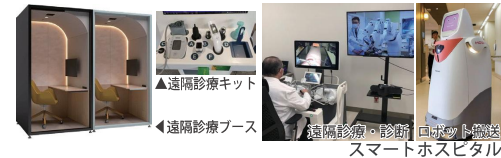
- ・感染経路を断つための感染防止策により、感染の拡大を抑制し、スタッフの安全を守ります。また常時機械換気2回/hとした計画とします。



スタッフの安全を守る工夫

## 04 DX時代の「スマートホスピタル」を推進

- ・人口減少や少子高齢社会、人材不足、働き方改革、へき地医療など、地域や医療を取り巻く様々な課題に対して、最新のIoT技術を活用する医療DX「スマートホスピタル」を推進します。



スマートホスピタル

## 05 「ゼロカーボンシティ」に寄与

- ・錦江町・南大隅町共同による「ゼロカーボンシティ宣言」をもとに持続可能な脱炭素社会の構築や、持続可能な社会づくり「SDGs」に寄与するプロジェクトとして下記項目達成を目指した施設づくりを行います。

3 地域貢献	住民の命と健康を守る「安心・安全のシンボル」	11 災害対策	あらゆる災害に強く、救護活動が可能なBCP病院
7 環境配慮	再生可能エネルギーを活用した持続可能な施設計画	13 気候変動への対応	カーボンニュートラルを目指した環境負荷の低減

本プロジェクトによる「SDGs」

## 06 ともに考えともに創る「対話の設計」を大切に、確実に「想いをかたちに」

### ① 対話を重視「丁寧に・いち早く・適切に・わかりやすく」



### ③ コロナ禍における確実な業務推進

- ・「対面+オンライン」による打合せ
- ・コロナの状況に応じてオンラインでの会議を開催し、「対面+オンライン」により滞りなく業務を推進します。



「対面+オンライン」

### ② 対話のプロセスを重視



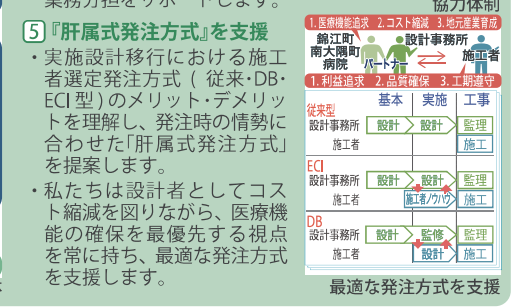
### ④ 鹿児島県建築設計監理事業協同組合との協力体制

- ・共同企業体として、情報共有を綿密に行い、手戻りなく円滑に業務を遂行します。
- ・協力体制を築き、協同組合の業務分担をサポートします。



### ⑤ 『肝属式発注方式』を支援

- ・実施設計移行における施工者選定発注方式(従来・DB・ECI型)のメリット・デメリットを理解し、発注時の情勢に合わせた「肝属式発注方式」を提案します。
- ・私たちは設計者としてコスト縮減を図りながら、医療機能の確保を最優先する視点を常に持ち、最適な発注方式を支援します。



最適な発注方式を支援